

未来へつなぐ

はんしん あわじ だいしんさい ひょうご けんこう べし さいがい
 阪神・淡路大震災を経験した兵庫県神戸市は、災害に強いまちづくりを目指して復興してきました。仙台市は復興に向けてどんなまちづくりを始めたのでしょうか。

1 神戸市の安全都市づくり

1995年（平成7年）1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、兵庫県神戸市にもとても大きな被害をもたらしました。神戸市は、それ以来、地震などの自然災害をはじめ、あらゆる危機から人々の命を守るために「減災防犯から始まる安全都市づくり」を目標にまちづくりを進めています。

地震に強い防火水そうやたくさんの水を地域に届けられる送水管を設置したり、緊急時に災害情報が市民に確実に届くように通信システムを整備したりしています。

また、災害時は地域の人々のつながりが大切です。そこで、市と地域住民が協力して、津波から身を守る避難訓練や津波標示板の設置を行っています。

「自助」「共助」「地域力」

～神戸市危機管理室係長（当時）高田 一也さんの話～

わたしたちは、阪神・淡路大震災から「自助（自分の命は自分で守る）」「共助（互いに助け合う心の輪）」「地域力」という大切な学びを得ました。

神戸市には、「防災福祉コミュニティ」という組織があります。これは、災害のときだけではなく、日頃からお年寄りを見守ったり、となり近所で声をかけあったりするという目的で、震災後に作られたものです。神戸市には、現在191地区でコミュニティが結成され、住民が参加する行事を定期的に行うなど自主的な活動に取り組んでいます。

また、震災の体験や教を次の世代に伝えるために、小中学校での防災学習を充実させることも安全都市づくりにとって重要な仕事になっています。



2 復興へ！未来へつなぐ

仙台市でも、今回の震災の反省を生かして、災害に強い新しいまちづくりを始めています。

その中の一つ、「わたしたちの命と暮らしを守る『減災』まちづくり」では、津波への対策や地震に強い建物づくり、ライフライン（電気、ガス、水道など）の強化、避難所の見直しなどを行っています。「『省エネ・新エネ』対応型まちづくり」では、これからのエネルギー源を研究・開発するための拠点づくりを進めています。

また、「支え合う『自立』『協働』まちづくり」では、復興支援活動を支える人材を育てることに努めています。

? 考えよう

- 避難所として位置付けられている学校や公園には、どのような施設・設備が整備されているか調べてみましょう。
- 仙台市の震災復興計画を調べ、これからのまちづくりに必要なことを考えてみましょう。

エコモデルタウンとは…

仙台市は、津波で被災した沿岸部の方々の集団移転場所の一つとして仙台市田子西地区を予定していますが、そこを「エコモデルタウン」とする計画を進めています。

住宅に太陽光発電を導入し、さらには、電気をたくわえるバッテリーや電力使用量を目で確かめられるスマートメーター（次世代電力計）を活用することにより、効率がよくて、非常時にもエネルギーが確保できるエコタウンを目指しています。

